

生徒数及び部活動設置数の現在の状況と5年後（R8）の予測（試算）

		R 3			R 8		社会体育 男子9% 女子3%	無所属 男子5% 女子5%	部活動 非所属 生徒数	運動部 男子78% 女子60%	文化部 男子8% 女子32%	部活動 所属 生徒数	最大設置部活動数		平均 部員数
		※平均25~30人／部 ※複数顧問配置													
		生徒数	部活動数 (男女別) ※水泳・新体操含む	顧問数	生徒数	顧問数							運動部	文化部	
井波中	合計	186	14	13	138	13	8	7	15	95	28	123	5		24.6
	男子	87	7		68		6	3	9	53	6	59	2	1	
	女子	99	7		70		2	4	6	42	22	64	2		
利賀中	合計	12	2	5	5	4	0	0	0	5	0	5	1 ※マルチ部		5.0
	男子	7	1		3		0	0	0	3	0	3	1	1	
	女子	5	1		2		0	0	0	2	0	2			
城端中	合計	206	16	14	161	13	11	8	19	113	29	142	6		23.7
	男子	110	9		94		9	5	14	73	7	80	3	1	
	女子	96	7		67		2	3	5	40	22	62	2		
平中	合計	42	6	7	27	6	0	0	0	21	6	27	3		9.0
	男子	22	3		14		0	0	0	13	1	14	1	1	
	女子	20	3		13		0	0	0	8	5	13	1		
福野中	合計	358	26	21	321	18	20	16	36	223	62	285	9		31.7
	男子	185	13		166		15	8	23	130	13	143	4	2	
	女子	173	13		155		5	8	13	93	49	142	3		
福光中	合計	183	16	14	197	13	12	10	22	137	38	175	6		29.2
	男子	91	9		102		9	5	14	80	8	88	3	1	
	女子	92	7		95		3	5	8	57	30	87	2		
吉江中	合計	175	18	14	143	13	9	7	16	101	26	127	5		25.4
	男子	100	10		83		7	4	11	65	7	72	2	1	
	女子	75	8		60		2	3	5	36	19	55	2		
南砺 つばき	合計	22	4	5	33	6	3	2	5	21	7	28	3		9.3
	男子	11	2		15		2	1	3	11	1	12	1	1	
	女子	11	2		18		1	1	2	10	6	16	1		
合計		1,184	102	93	1,025	86	63	50	113	716	196	912	38		24.0

※1つの部に男女が所属している部は、男女別にカウント

※R8の顧問数は、学級数に応じて配置される教員数から、顧問が受け持てる教員数を算出

※1つの部に「複数の顧問を配置する」「25人以上の部員数となる」条件で試算

生徒数及び部活動設置数の現在の状況と10年後（R13）の予測（試案）

		R 3			R13		社会体育 男子9% 女子3%	無所属 男子5% 女子5%	部活動 非所属 生徒数	運動部 男子78% 女子60%	文化部 男子8% 女子32%	部活動 所属 生徒数	最大設置部活動数 ※R8で算出した部の数		平均 部員数	最大設置部活動数 ※平均25~30人／部 ※複数顧問配置		平均 部員数
		生徒数	部活動数 (男女別) ※水泳・新体操含む	顧問数	生徒数	顧問数							運動部	文化部		運動部	文化部	
井波中	合計	186	14	13	141	13 ※R15は12	7	7	14	97	30	127	5	25.4	5		25.4	
	男子	87	7		63		5	3	8	50	5	55	2		1	2		1
	女子	99	7		78		2	4	6	47	25	72	2		1	2		1
利賀中	合計	12	2	5	7	4	0	0	0	7	0	7	1 ※マルチ部	7.0	1 ※マルチ部		7.0	
	男子	7	1		4		0	0	0	4	0	4	1		1	1		1
	女子	5	1		3		0	0	0	3	0	3	1		1	1		1
城端中	合計	206	16	14	117	10 ※R15は9	7	5	12	79	26	105	6	17.5	4		26.3	
	男子	110	9		50		5	2	7	39	4	43	3		1	1		1
	女子	96	7		67		2	3	5	40	22	62	2		1	2		1
平中	合計	42	6	7	21	6	0	0	0	15	6	21	3	7.0	3		7.0	
	男子	22	3		8		0	0	0	7	1	8	1		1	1		1
	女子	20	3		13		0	0	0	8	5	13	1		1	1		1
福野中	合計	358	26	21	301	17	19	14	33	208	60	268	9	29.8	8		33.5	
	男子	185	13		151		14	7	21	118	12	130	4		2	3		2
	女子	173	13		150		5	7	12	90	48	138	3		2	3		2
福光中	合計	183	16	14	165	13	10	8	18	114	33	147	6	24.5	6		24.5	
	男子	91	9		86		8	4	12	67	7	74	3		1	3		1
	女子	92	7		79		2	4	6	47	26	73	2		1	2		1
吉江中	合計	175	18	14	107	10 ※R15は9	7	4	11	75	21	96	5	19.2	4		24.0	
	男子	100	10		57		5	2	7	45	5	50	2		1	2		1
	女子	75	8		50		2	2	4	30	16	46	2		1	1		1
南砺 つばき	合計	22	4	5	17	6	2	0	2	11	4	15	3	5.0	3		5.0	
	男子	11	2		8		1	0	1	6	1	7	1		1	1		1
	女子	11	2		9		1	0	1	5	3	8	1		1	1		1
合計		1,184	102	93	876	79	52	38	90	606	180	786	38	20.7	34		23.1	

※1つの部に男女が所属している部は、男女別にカウント

※R13の顧問数は、学級数に応じて配置される教員数から、顧問が受け持てる教員数を算出

提 言 (案)

中学校部活動は、学習指導要領に位置付けられた、学校教育の一環として行われる活動である。スポーツや芸術文化等に興味・関心のある同好の生徒が参加し、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図ったり、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資したりするなど、生徒の多様な学びの場、そして活躍の場として、教育的意義を有している。

しかしながら、近年の少子化の影響による部員数の減少により、人数が必要な種目でチーム編成が困難となったり、継続した集団活動が行いにくくなったりする部活動が増加傾向にあることから、部活動に期待されるねらいを達成しにくい状況となっている。

これは、各学校の生徒数に対して、部活動数過多となっていることが、大きな要因の一つとして考えられる。

他方で、部活動指導は、部活動指導員やスポーツエキスパート、外部指導者等によって専門的な技術指導が行われているものの、部活動の運営の大部分は、教師の献身的な勤務によって支えられており、長時間勤務の要因となったり、専門的な経験のない教師への過大な負担となったりしているのが、実情である。

もはや、これまでどおりの部活動運営では、生徒にとって充実した部活動環境を維持することは困難な状況になっており、生徒にスポーツや芸術文化等の活動機会を提供する持続可能な環境づくりが急務である^り、**これ以上課題が大きくなる前に対策が必要である。**

これらを踏まえ、「南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会」では、令和2年**1 2**月より、生徒にとって望ましい持続可能な部活動の在り方について検討を進めてきた。

現在の学校環境を生かしながら、指導者団体や保護者等地域と連携して、早期に、生徒に充実した部活動環境を提供できるよう求めるものであり、次のとおり提言する。

記

【1. 一部活動の拠点校化】

多くの仲間と共に活動する充実した部活動を可能にするため、各学校に設置する部活動は、生徒数に応じた適切な数に整理することが望ましい。

その際、保護者や子供の意向にも配慮しつつ、現在ある部活動の種類は、将来も持続可能となるよう、市内の中・義務教育学校のうち部活動を拠点校化し、可能な限り最低1校に設置し、されることが望ましい。

また、指導者の状況を加味しながら等について、各種スポーツ・文化芸術団体、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等と協議しながら、市全体でバランスを図り設置するよう配慮することされたい。

【2. 一部活動の地域移行の推進】

生徒に、より質の高い指導が提供できるよう、学校部活動と地域や各種団体との連携を図り、地域指導者による定期・継続的な指導体制の整備や指導者の資質向上に対して市や関係団体が支援をすることが望ましい。

そのために、部活動指導員やスポーツエキスパート等の外部指導者派遣事業の拡充の他、公立学校の教師等の兼職兼業による地域部活動への従事、企業等が地域部活動を応援できる制度の整備等を図り、できるだけ学校生活と密接な地域部活動が運営できるよう、地域指導者の確保に努めることされたい。

【3. 特認校制度の導入】

各学校の部活動数の適正化部活動の拠点校化によって、生徒にとっては、各学校での選択肢は現在より減ることから、地域を基盤とした特色ある学校づくりの一環として、各学校に設置される部活動を選択し、就学することができるよう、住所地の校区の中・義務教育学校以外への就学を認める「特認校制度」を早期に導入することされたい。

【4. 国や県の動向の注視】

現在、国や県においても、中学校部活動に関する議論が進められていることから、生徒が不利益を被らないよう、国や県の動向を注視しながら、柔軟な対応ができるよう配慮されたい。

令和4年3月 日

南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会
委員長 堀田 朋基

参考資料

【用語の説明】

部活動の拠点校化

生徒数の減少に対応し、**教育的意義を損なわない部活動の体制を整える**ため、市内中・義務教育学校の部活動を計画的に統廃合するもので、現存のスポーツ・文化芸術の部活動を市内中・義務教育学校のうちにおいて、最低1か所に残すことができるよう、生徒数や指導者の状況を考慮して、市全体のバランスを取りながら配置する方法

※ 南砺市が進めようとする「拠点校化」は、部活動の時間のみ移動して活動するものではなく、下記の特認校制度を利用して転入学し、部活動に参加するもの。

特認校制度

各学校で**編成される**地域を基盤とした特色あるカリキュラムの編成を進める中で**各学校に設置される部活動の状況から**、住所地の校区以外の学校で学びたいと考える児童生徒が、校区に関わらず、市内の希望する学校に転入学できる制度のこと

- ※ 基本として定められている校区外の学校へは、保護者の責任の下に通学する。
- ※ 学校施設の状況（教室数や広さ）によって定員を設ける場合がある。

提 言 (案)

中学校部活動は、学習指導要領に位置付けられた、学校教育の一環として行われる活動である。スポーツや芸術文化等に興味・関心のある同好の生徒が参加し、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図ったり、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資したりするなど、生徒の多様な学びの場、そして活躍の場として、教育的意義を有している。

しかしながら、近年の少子化の影響による部員数の減少により、人数が必要な種目でチーム編成が困難となったり、継続した集団活動が行いにくくなったりする部活動が増加傾向にあることから、部活動に期待されるねらいを達成しにくい状況となっている。

これは、各学校の生徒数に対して、部活動数過多となっていることが、大きな要因の一つとして考えられる。

他方で、部活動指導は、部活動指導員やスポーツエキスパート、外部指導者等によって専門的な技術指導が行われているものの、部活動の運営の大部分は、教師の献身的な勤務によって支えられており、長時間勤務の要因となったり、専門的な経験のない教師への過大な負担となったりしているのが、実情である。

もはや、これまでどおりの部活動運営では、生徒にとって充実した部活動環境を維持することは困難な状況になっており、生徒にスポーツや芸術文化等の活動機会を提供する持続可能な環境づくりが急務であり、これ以上課題が大きくなる前に対策が必要である。

これらを踏まえ、「南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会」では、令和2年12月より、生徒にとって望ましい持続可能な部活動の在り方について検討を進めてきた。

現在の学校環境を生かしながら、指導者団体や保護者等地域と連携して、早期に、生徒に充実した部活動環境を提供できるよう求めるものであり、次のとおり提言する。

記

【1 部活動の拠点校化】

多くの仲間と共に活動する充実した部活動を可能にするため、各学校に設置する部活動は、生徒数に応じた適切な数に整理することが望ましい。

その際、保護者や子供の意向にも配慮しつつ、現在ある部活動の種類は、将来も持続可能となるよう、市内の中・義務教育学校の部活動を拠点校化し、可能な限り最低1校に設置されることが望ましい。

また、指導者の状況を加味しながら、各種スポーツ・文化芸術団体、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等と協議し、市全体でバランスを図り設置するよう配慮されたい。

【2 部活動の地域移行の推進】

生徒に、より質の高い指導が提供できるよう、学校部活動と地域や各種団体との連携を図り、地域指導者による定期・継続的な指導体制の整備や指導者の資質向上に対して市や関係団体が支援をすることが望ましい。

そのために、公立学校の教師等の兼職兼業による地域部活動への従事、企業等が地域部活動を応援できる制度の整備等を図り、できるだけ学校生活と密接な地域部活動が運営できるよう、地域指導者の確保に努められたい。

【3 特認校制度の導入】

部活動の拠点校化によって、生徒にとっては、各学校での選択肢は現在より減ることから、地域を基盤とした特色ある学校づくりの一環として、各学校に設置される部活動を選択し、就学することができるよう、住所地の校区の中・義務教育学校以外への就学を認める「特認校制度」を早期に導入されたい。

【4 国や県の動向の注視】

現在、国や県においても、中学校部活動に関する議論が進められていることから、生徒が不利益を被らないよう、国や県の動向を注視しながら、柔軟な対応ができるよう配慮されたい。

令和4年3月 日

南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会
委員長 堀 田 朋 基

参考資料

【用語の説明】

部活動の拠点校化

生徒数の減少に対応し、教育的意義を損なわない部活動の体制を整えるため、市内中・義務教育学校の部活動を計画的に統廃合するもので、現存のスポーツ・文化芸術の部活動を市内中・義務教育学校において、最低1か所に残すことができるよう、生徒数や指導者の状況を考慮して、市全体のバランスを取りながら配置する方法

※ 南砺市が進めようとする「拠点校化」は、部活動の時間のみ移動して活動するものではなく、下記の特認校制度を利用して転入学し、部活動に参加するもの。

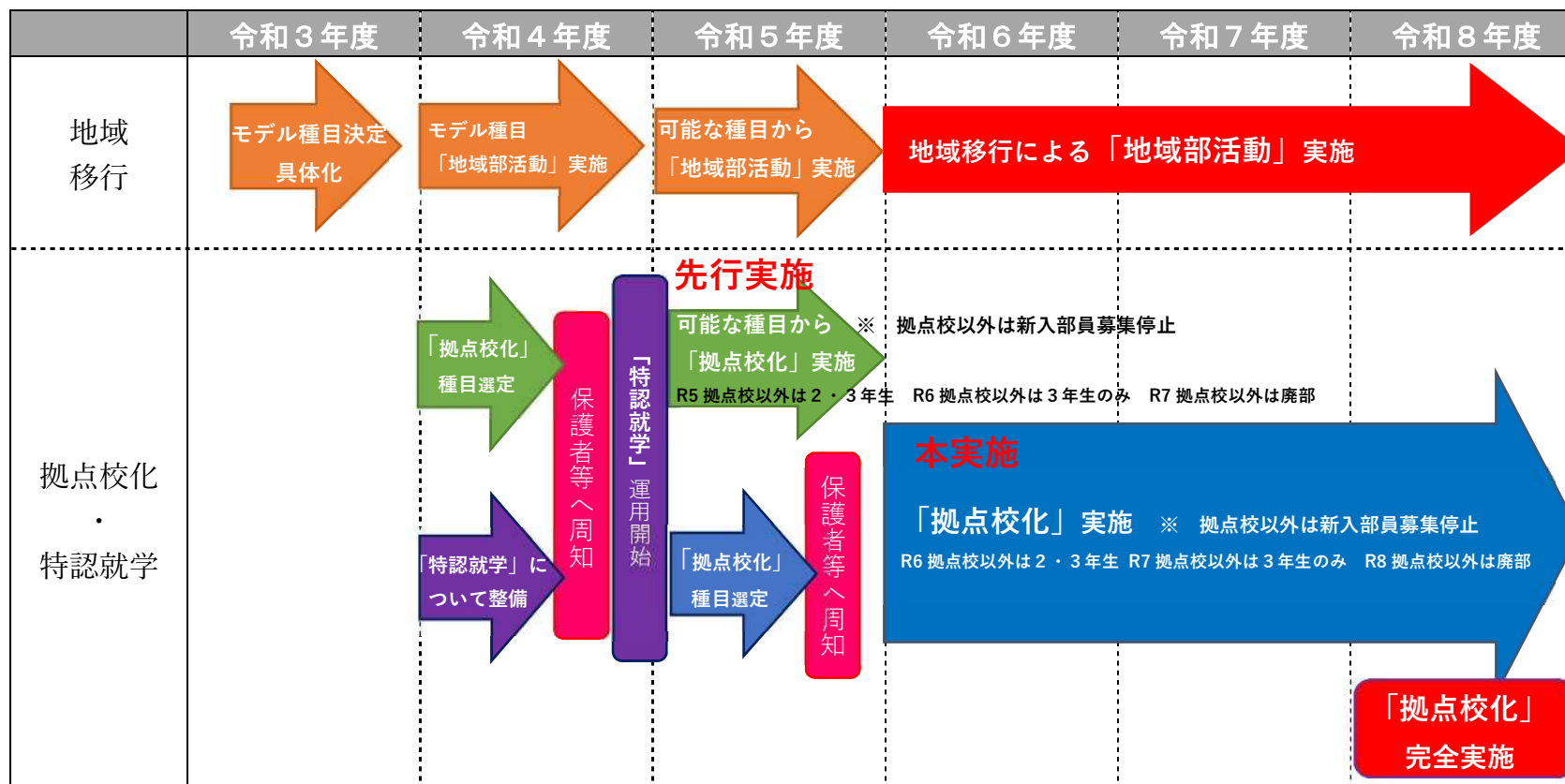
特認校制度

各学校で編成される地域を基盤とした特色あるカリキュラムや各学校に設置される部活動の状況から、住所地の校区以外の学校で学びたいと考える児童生徒が、校区に関わらず、市内の希望する学校に転入学できる制度のこと

※ 基本として定められている校区外の学校へは、保護者の責任の下に通学する。

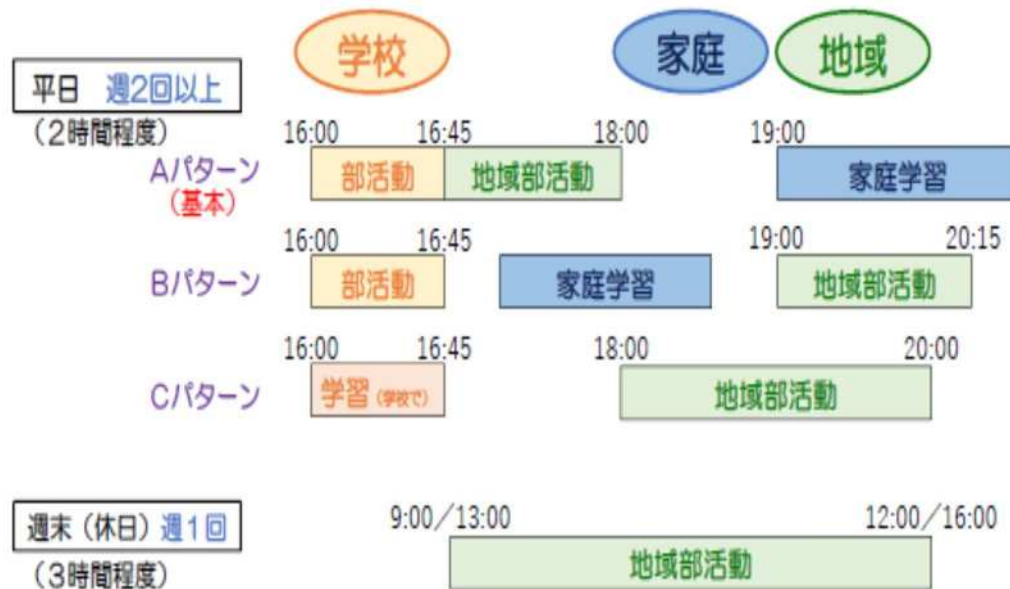
※ 学校施設の状況（教室数や広さ）によって定員を設ける場合がある。

地域移行・拠点校化のスケジュール（案）



- ※ 拠点校以外の学校に設置されている同じ種目の部では、新入部員の募集をしない。
- ※ 各学校では、充実した部活動環境の整備のため、各学校の部活動の募集停止（廃部）規定に照らして、生徒数に応じた部活動の適正配置に努める。
- ※ 働き方改革の観点から、段階的に顧問の部活動指導が勤務時間内となるよう、校長会等と協議する。

部活動の地域移行による活動時間例



※ 平日の活動パターンとして、基本となる活動パターンは、Aパターンが望ましいと考えるが、指導者確保の面から B パターンや C パターンの活動も考えられる。

※ 休日の活動は、団体が主催する小学生から大人まで一緒に行う活動に、中学生も一緒に活動する形が考えられる。

提言（案）の修正

No.	ページ	修正前	修正案	対応
①	1	数字のフォントの違い	フォントの統一	同じフォントで修正します。
②	1	「どこの学校にどの部活動を設置するか決定する。」といった誰もが一番知りたかったことが先延ばしになった感もあり、その結果をみて単位団の統廃合の参考にする予定であった南砺市スポーツ少年団としても非常に危惧しているところです。1 ページ目の最後には「早期に、生徒に充実した部活動環境を提供…」となっています。 また、「1. 特認校制度の導入」については「早期に導入されたい。」となっていますが、「部活動の拠点校化」や「部活動の地域移行の推進」についても「早期に導入」とか「早急に進める必要がある。」とか期限について記入しておき、とにかく早く進めるべきだ…との思いを強くしておいた方がいいように感じています。 そうしないとただでさえ当初の予定より2 年も先延ばしになっているのに益々遅れるような気がします。 市全体でバランスを図り設置するよう配慮されたい。 部活動の地域移行の推進について できるだけ学校生活と密接な地域部活動が運営できるよう、地域指導者の確保に努められたい。	例えば部活動の拠点校化について 市全体でバランスを図り<u>期限までに確実に</u>設置するよう配慮されたい。 部活動の地域移行の推進について <u>できるだけ早い時期から</u>学校生活と密接な地域部活動が運営できるよう、地域指導者の確保に努められたい。	1 ページ目の最終段落で、「…<u>早期に</u>、生徒に充実した部活動環境を提供できるよう求めるものであり、…」と述べており、「<u>拠点校化</u>」「<u>地域移行</u>」を含めて、<u>部活動改革を早期に進める必要性</u>を述べています。 2 ページ「3 特認校制度の導入」は、<u>部活動改革とは別に、既に計画にあることから</u>「早期に導入されたい」と改めて記載しています。
③	1	生徒にスポーツや芸術文化等の活動機会を提供する持続可能な環境づくりが急務である。 これらを踏まえ、「南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会」では…	生徒にスポーツや芸術文化等の活動機会を提供する持続可能な環境づくりが急務である。また、<u>これらの課題を先送りすればするほど、課題が益々大きくなり、頑張っている子ども達に充実した環境を整備することが難しくなる。</u> これらを踏まえ、「南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会」では…	ご意見を参考に、「急務であり、これ以上課題が大きくなる前に対策が必要である。」としました。
④	1	（一番下） 現在の学校環境を生かしながら、指導者団体や保護者等地域と連携して、	削除 ※現在の学校環境を生かすということは<u>この委員会から出た意見ではない</u>ため ※「<u>保護者等と連携</u>」とは具体的にどういうことでしょうか？	「学校環境」は、<u>現在の生徒数や教員数、学校施設や周辺施設の状況、指導者の状況等を総じて述べており、現状の中で子供たちにすぐに提供できる対策を講ずるための提言である</u>と考えます。 「保護者等との連携」とは、<u>保護者や地域の方の意向も十分に聞き、理解を得る</u>ことが含まれます。
⑤	2	市内の中・義務教育学校のうち、可能な限り 部活動の設置については分かるのですが、<u>拠点校化というメッセージをより明確に</u>できればと思いました。	市内の中・義務教育学校の部活動を<u>計画的に統廃合</u>し、可能な限り	<u>用語の解説に、計画的に統廃合することを記載</u>しているので、「<u>部活動を拠点校化</u>し」としました。

N o .	ページ	修正前	修正案	対応
⑥	2	南砺市の「南砺市文書事務の手引き」では、見出し符号の次には「、」は付けないのではなかったですか？ 【1. 部活動の拠点校化】 【2. 部活動の地域移行の推進】 【3. 特認校制度の導入】 となっています。 <u>「提言書」の意味の重さを考えた時、「。」は付けなくてもいいように感じます。</u>	【1 部活動の拠点校化】 【2 部活動の地域移行の推進】 【3 特認校制度の導入】	<u>「南砺市文書事務の手引き」を参考に、修正しました。</u>
⑦	2	【1. 部活動の拠点校化】 【2. 部活動の地域移行の推進】 【3. 特認校制度の導入】 の順番に提言されていますが、<u>南砺市が部活動について進める順番に記入</u>することも考えてみてはいかがでしょうか？	【1 部活動の地域移行の推進】 【2 特認校制度の導入】 【3 部活動の拠点校化】 特に意味がないのであれば検討の余地があるように思います。	少子化に伴う部活動の課題を解決するために、まずは、学校規模に応じた配置となるよう部活動の統廃合の必要があることがスタートとなっています。そのために<u>「拠点校化」を進めることが柱</u>となっています。「拠点校化」を進めることで<u>出てくる課題を解決するために「地域移行」や「特認校制度」が必要との考えから、構成</u>しています。
⑧	2	指導者について	<u>指導者の確保については、拠点化ではなく地域移行に記載すべきではないでしょうか？</u> 例 「されることが望ましく、指導者の状況等についても配慮し、市全体でバランスを図り設置するよう配慮されたい。」 「そのために、各種スポーツ・文化芸術団体、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等との協議、教師の兼職兼業による地域部活動への従事及び企業等が地域部活動を応援できる制度の整備等を図り・・・」	「指導者の状況を…協議しながら」は、現時点での<u>指導可能な指導者や指導可能な地域を明らかにし、拠点校を決定していくプロセス</u>について述べていますので、「部活動の拠点校化」の中で記載するのがよいと考えます。
⑨	2	1.拠点校化3段落目） また、指導者の状況について	<u>指導者の確保等</u> について	指導者の確保については、「2 部活動の地域移行の推進」の中で述べています。
⑩	2	(2.地域移行) 記載なし	<u>地域指導者と顧問の先生との連携や地域指導者に対しての研修も必要である</u> ということ記載していただけますか？	「… <u>学校部活動</u> と地域や各種団体との連携を図り、地域指導者による定期・継続的な指導体制の整備や <u>指導者の資質向上</u> に対して…」としました。
⑪	2	(2.地域移行1段落目) 支援をすることが望ましい	●●が支援をすることが望ましい ※<u>誰が支援をする</u>のでしょうか？	「 <u>市や関係団体</u> が」を加筆しました。
⑫	2	(3.特認校制度) 各学校の部活動数の適正化によって・・・導入されたい	<u>部活動の拠点校化によって、各学校での部活動の選択肢が現在より減ることから、希望する部活動を選択できるよう、住所地の校区以外の中・義務教育学校への就学を認める「特認校制度」を早期に導入</u> されたい。	<u>「各学校の部活動数の適正化」を削除し、「部活動の拠点校化」と</u> しました。

N o .	ページ	修正前	修正案	対応
⑬	2	「子供」は「子ども」の表記されることが多い。	<u>「子ども」で統一</u> してはどう でしょうか？	平成25年度より、 <u>文科省は</u> <u>「子供」の表記で統一</u> している ため、「子供」と表記したいと 考えます。
⑭	2	「教師」と「教員」の違いについて、文科省では「教師」 を主に使用されていますが、富山県教委では「教員」を使用 されています。どちらが正しい言い回しなのでしょうか？	個人的な感覚かもしれませんが、 <u>「教員」</u> がいいように感じ ます。	「学校教育法」等の法規で は、 <u>「教員」</u> には校長が含まれ ません。 また、文科省の通知には、 <u>「公立学校の教師等の兼職兼</u> <u>業」と</u> ありましたので、文科省 の通知に合わせて修正します。
⑮	2 3	「特認校制度」の学校選定基準については「部活動選択」の他 に <u>「特色あるカリキュラム」</u> も含まれるのか？	<u>特色あるカリキュラムについて</u> <u>「3. 特認校制度の導入」に記載</u> がなくてもよいか？	「特認校制度」では、特色あ るカリキュラムを選択し、学校 を選択することも可能です。 <u>「特色ある学校づくり」の中に</u> <u>特色あるカリキュラムも含まれ</u> <u>る</u> と考えます。
⑯	3	(拠点校化) 生徒数の減少に対応するため	<u>教育的意義のある部活動の体制</u> <u>を整えるため</u>	ご意見を参考に、「生徒数の 減少に対応し、 <u>教育的意義を損</u> <u>なわない部活動の体制を整える</u> <u>ため」と</u> しました。
⑰	3	(拠点校化) 市内中・義務教育学校のうち最低一か所に残すことができるよ う	市内中・義務教育学校 <u>において</u>	修正しました。
⑱	3	(地域移行) 記載なし	<u>地域移行に関する説明（背景や</u> <u>目的など）も必要ではないでし</u> <u>うか？</u>	<u>1 ページ目に背景、2 ページ</u> <u>目【2 部活動の地域移行の推</u> <u>進】で目的にあたる部分を述べ</u> <u>ているので、あえて記載する必</u> <u>要がないと考えています。</u>
⑲			<u>4 国や県の動向の注視</u>	<u>中体連の大会参加要件の緩和</u> <u>について報道がなされたため、</u> 今後、その内容が明らかになっ た際に柔軟な対応が必要と考 え、追記しました。
⑳		南砺市体育協会の意見書を見た上で提言書に取り入れた箇 所があるのであればどの箇所なのか教えてください。		南砺市体育協会からの意見で は、 <u>子供たちのよりよい環境で</u> <u>の活動について具体的なご意見</u> <u>をいただきました。</u> 今回の <u>提言書では、大まかな</u> <u>方向性について提言するもの</u> と 考えています。個別具体につい ては、例えば、指導者の報酬や 保険、施設使用料について意見 がありましたが、これまでの検 討委員会で協議いただいた内容 と合致します。 いただいたご意見について は、 <u>実施可能か否かを検討しな</u> <u>がら、今後の関係団体等との協</u> <u>議の中で、可能な意見について</u> <u>は実現できるよう努めていきま</u> <u>す。</u>

令和4年2月24日



南砺市教育委員会

教育長 松本 謙一 様

南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会に対しての意見書

南砺市スポーツ少年団

本部長 永山 恵



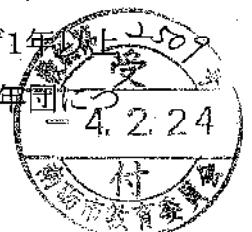
南砺市スポーツ少年団は平成17年に結成され、当時は7支部42の単位団1,065名の団員が在籍していました。しかしながら現在は7支部34の単位団638名の団員数となり、南砺市が誕生してから16年間で約2割の単位団と約4割もの団員が減少したことになります。更に来年度からは利賀支部が10名の子どもさえも確保できないということで南砺市スポーツ少年団を脱退されることが既に決まっています。少子化の波は中学校部活動よりも何年も先にスポーツ少年団に確実に押し寄せて来ています。

このようなことから南砺市スポーツ少年団では数年前から単位団の統廃合についても協議を重ねてきたところです。そこに令和2年12月に「南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会」が立ち上がり、当初拠点校化完全実施までのスケジュールでは「令和3年度12月頃までにはスポーツ少年団の中心となる地域部活動設置中学校の公表、周知」「令和4年度にスポーツ少年団の集約」となっていました。

また組織と指導体制の一本化ということで、南砺市体育協会が中心となりスポーツ少年団等で小中一貫指導といった改善案も示されていました。この提案をみて当然南砺市スポーツ少年団とすれば何とか同じ方向に進めないものかと検討していたところです。

また「よりよい部活動運営体制の構築について(案)」では「どの中学校にどの部活動を設置するか決定する。」と赤字で強調した一文もあり、「小学校段階から中学校段階まで継続して取り組める環境をつくる。」「スポーツ少年団と部活動の指導の分断を無くしたい。」と教育委員会から何度も説明を受けて来ました。

ところが「南砺市立中学校の部活動のあり方検討委員会」の資料からはいつのまにか「スポーツ少年団」という名称まで完全に無くなってしまいました。第4回南砺市立中学校の部活動のあり方検討委員会の資料2に至っては「拠点校化については、スポーツ少年団等の小学校段階の活動とは切り離して検討する。」とまで明記されています。いったい南砺市教育委員会はスポーツ少年団と部活動との関係をどうしたかったのかその真意が全く分かりません。なぜ1年以上も協議してきた中でこれほどまで違う見解になってしまったのか、また現在はスポーツ少年団に



いてどういったことを考えておられるのか南砺市スポーツ少年団に関わる全ての子ども達、保護者、指導者にも分かるように明確な回答をお願いいたします。

次に「南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会」では当初令和2年度から3年度にかけて予定されていた「各競技スポーツ少年団の中心となる地域部活動設置中学校の公表・周知」について全く協議することもなく、具体的にどの中学校にどの部活動を設置するか決定されることなくこの検討委員会は終了することになりました。

第6回南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会では、具体的にどの中学校にどの部活動を残すかは今年秋に設置される「南砺市立学校のあり方検討委員会」の中に設置されるプロジェクトチーム(実働部隊)で協議して2年間をかけて決めたいという報告がありました。

令和8年度から完全拠点校化を実施し、その年に拠点校以外の部活動は全て廃部とするのであれば、令和4年度中にどの中学校にどの部活動を設置するか決定し、「拠点校化の種目設定」を公表し、令和5年度からは特認就学も認めた上で令和8年度から拠点校化完全実施をするべきだと思います。そうすれば令和6年度に入学した生徒が在学中に在籍していた部活動が廃部となるということを多少なりとも防ぐことが出来るものと考えます。生徒のことを第一に考えるのであれば、やはり令和5年度の新入生からは令和8年度には拠点校化により廃部となる部活動があるということを理解した上で、部活動を選択してもらうのが最も望ましい姿、当たり前のことだと思います。

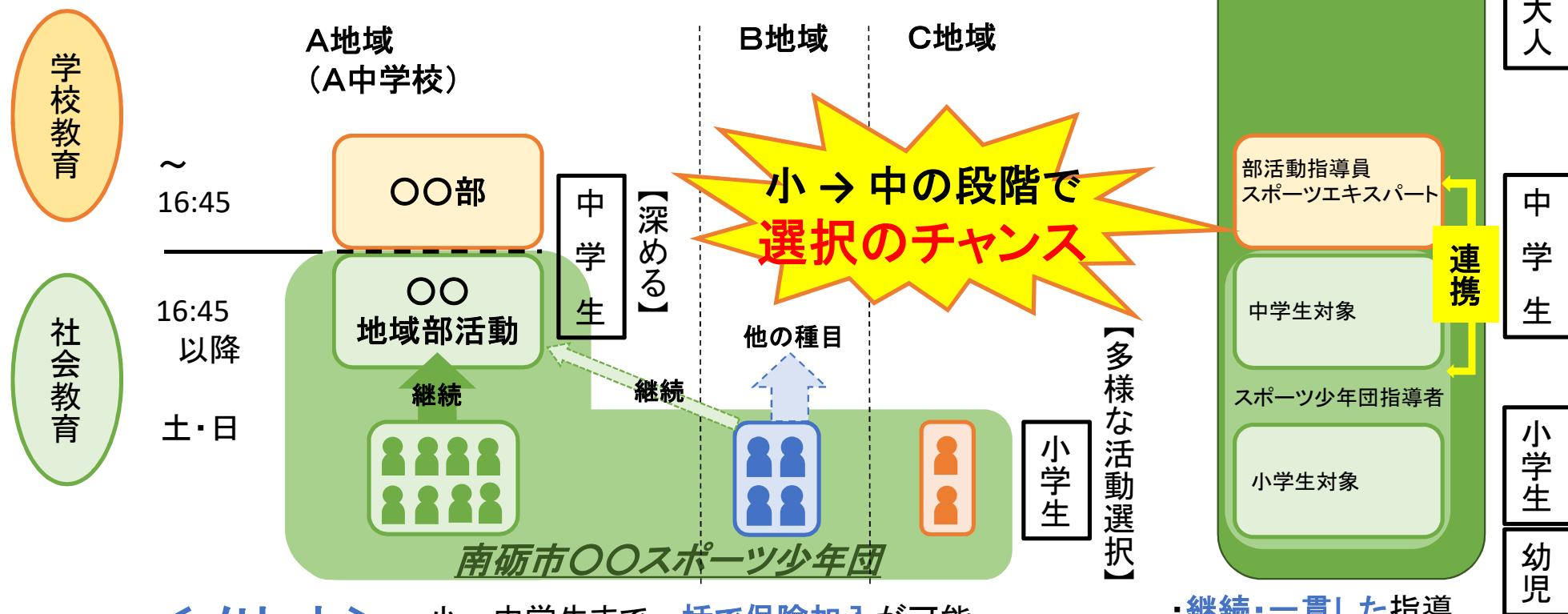
残念ながら「南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会」は南砺市教育委員会に提言を行う日で解散となり、「どの中学校にどの部活動を設置するか決定する。」といった当事者である子ども達、保護者、指導者が一番知りたかったことを決定するという重要な役目を達成することが出来ませんでした。

これらのことから南砺市スポーツ少年団としては、「南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会」で提言書をまとめ、その役目を終えたならば直ちに「どこの中学校にどの部活動を設置するのか」具体的な協議に入っていただくことを強く要望いたします。これまで南砺市教育委員会は生徒数の減少による部活動の課題を先送りすればするほど、課題が大きくなり、頑張っている子ども達のために充実した環境を整備することが難しくなるとの認識だったはずですが、にも拘らず各競技団体等に意向調査まで行ったのに、何故一番重要な決定事項を秋まで待ってから再び協議に入る必要があるのかが理解出来ません。

南砺市教育委員会では兼ねてから「部活動の問題はスポーツ少年団のあり方にも深くつながる問題と捉えている。」と何度も発言されていますとおり、南砺市スポーツ少年団は「どこの中学校にどの部活動を設置するのか」が決まった上で単位団の統廃合を具体的に検討する予定でいます。こういったことも踏まえて早急にどの中学校にどの部活動が残るのか直ちに協議に入り、早期に「拠点校化の種目設定」を公表していただきますよう強く要望いたします。

南砺市スポーツ少年団本部 提案 I (活動編)

地域部活動に参加する中学生がスポーツ少年団に登録する



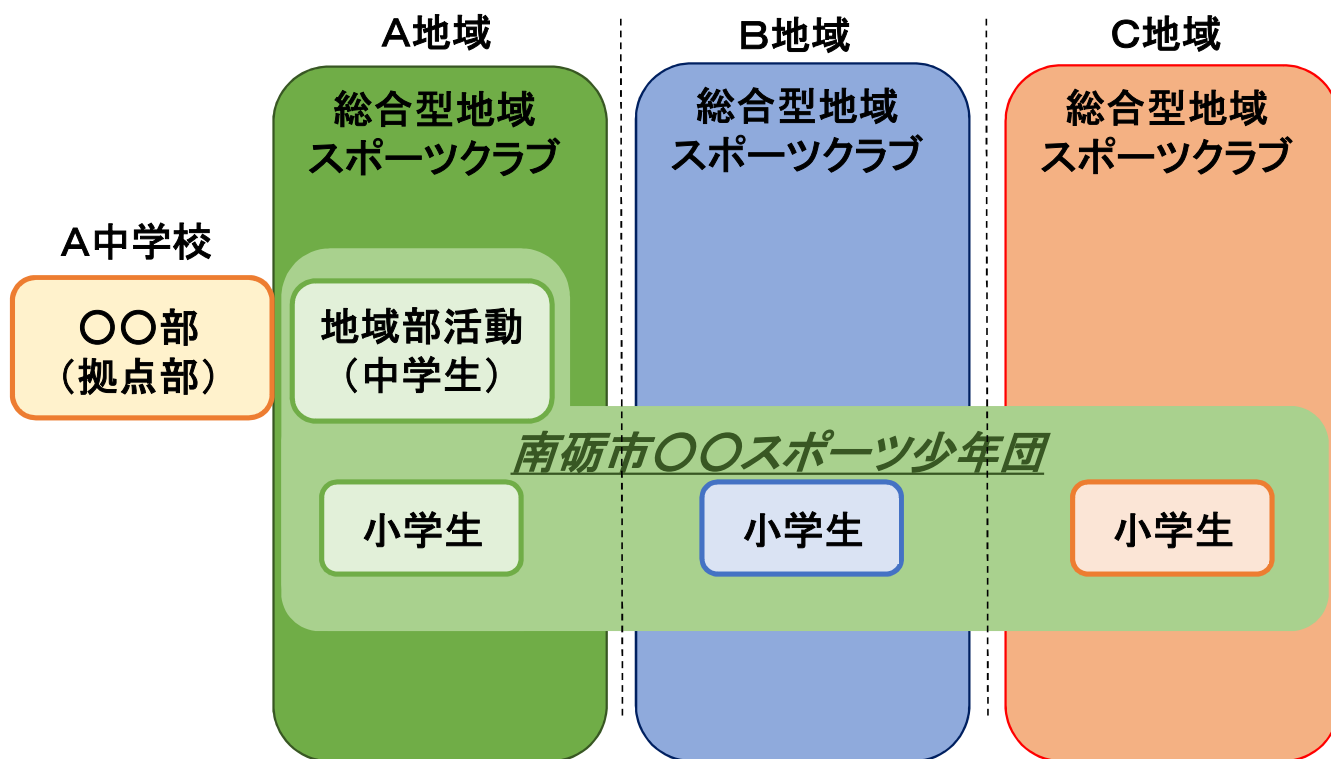
<メリット>

- ・小～中学生まで一括で保険加入が可能
- ・小～中学生の指導者同士の連携が深まる
- ・選択のチャンスがある

- ・継続・一貫した指導
- ・指導の透明性
- ・持続可能な指導体制

南砺市スポーツ少年団本部 提案 II (マネジメント編)

各地域の総合型地域スポーツクラブが連絡調整や会計・保険加入等の事務を担う



<例>

井波中学校の拠点種目



- ・中学生はアイウェーブで登録
- ・指導者謝金支払い業務、保険加入業務等をアイウェーブが行う。

※ 小学生の登録は、これまで通り、各地域の総合型クラブで行う。

南砺市教育委員会が考える改善点 ①

これまでのスポーツ少年団

- ・主に小学生のみが登録



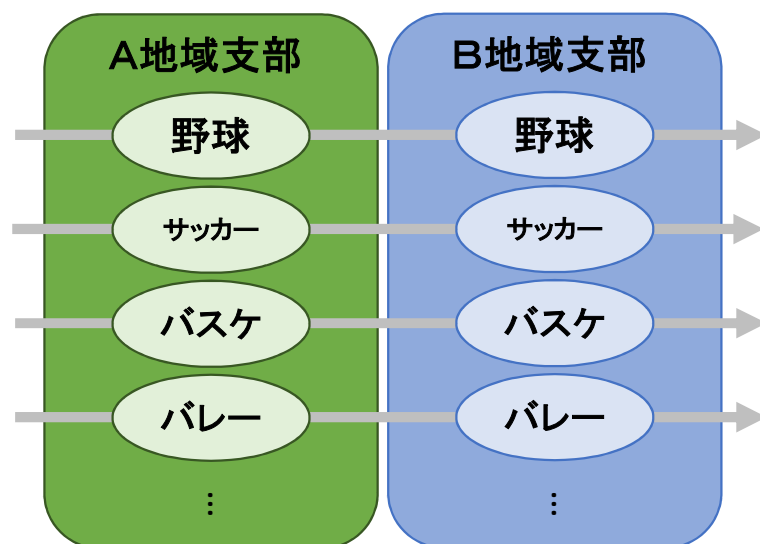
- ・各地域に単位団

提案するスポーツ少年団

- ・ 小・中学生が登録
- ・ 南砺市〇〇スポーツ少年団 1つ

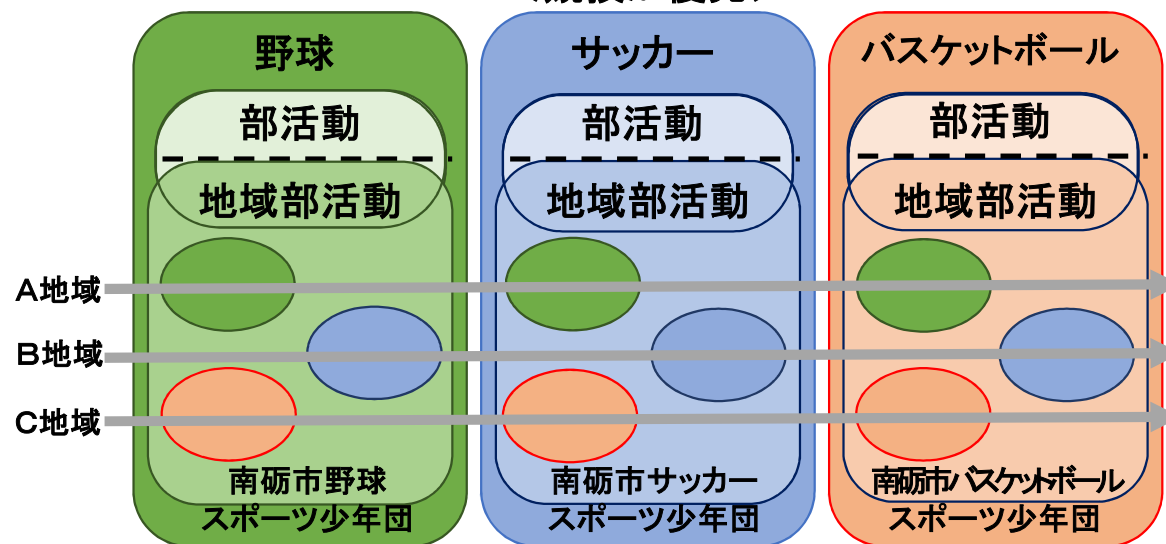
※ 小学生は、複数の活動場所
中学生は、拠点校のみで活動

<支部が優先>



支部ごとに種目がある

<競技が優先>



支部は、市全体を俯瞰的に見ながら、それぞれの地域を総括

南砺市教育委員会が考える改善点 ②

これまでのスポーツ少年団

- ・ 市内で予選をし、勝ったチームが県大会出場



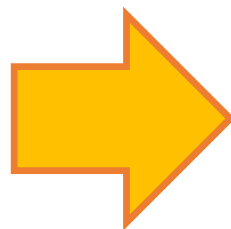
- ・ 少人数チームが県大会に出場できない



VS.



人数不足で
チームができない



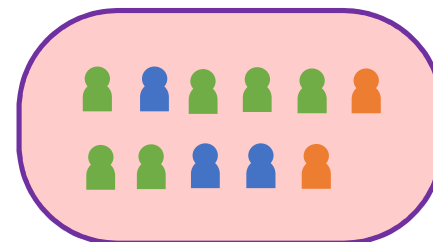
提案するスポーツ少年団

- ・ 市内で交流会をし、指導者同士が協議し、選抜選手でチームを編成して県大会に出場

→ 少人数のチームからも

出場のチャンス

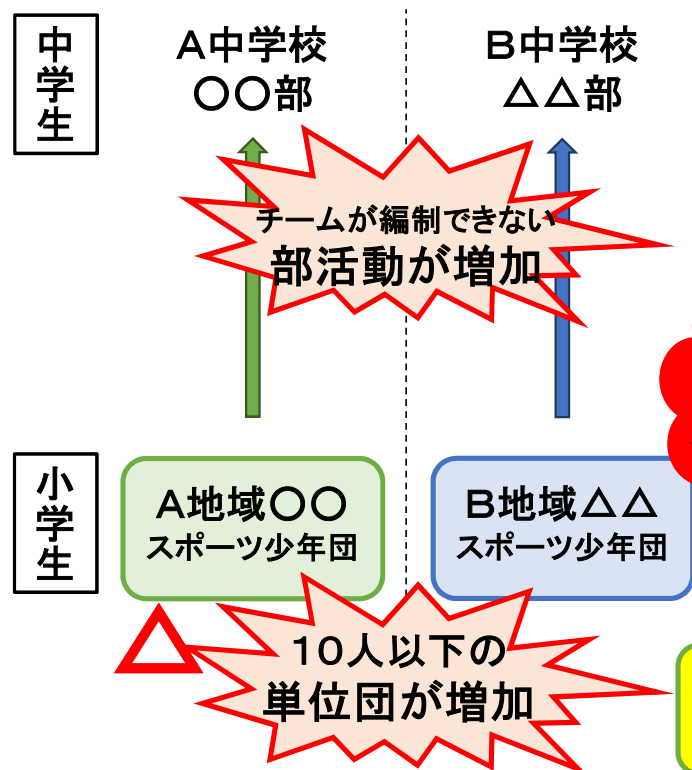
- ・ 選抜チームで合同練習を実施
→ 特認就学のきっかけ



選抜チーム

南砺市教育委員会が考える改善点 ③

これまでのスポーツ少年団



スポ少・文化芸術団体の小学生 **倍增!**

小学校・PTAとの連携
積極的な勧誘

提案するスポーツ少年団

